様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 22 年　5 月　25　日現在

研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2007　～2009
課題番号：19530629
研究課題名（和文）　高機能広汎性発達障害児・者への生涯発達支援に関する臨床的研究
研究課題名（英文）　The clinical study on supporting for life-span development to people with high-functioning pervasive developmental disorders.

研究代表者
髙原　朗子（TAKAHARA AKIKO）
熊本大学・教育学部・准教授
研究者番号：20264989

研究成果の概要（和文）：本研究では高機能広汎性発達障害児・者への生涯発達支援に関して心理劇による臨床心理学的支援を行い、その効果について検討した。その結果、幼児期・児童期・青年期という発達段階に配慮した心理劇的支援が必要であった。彼らに対する心理劇の具体的な効果として、(1) 幼児期は、対人関係の育成、(2) 児童期は、対人関係の育成・自己の見直し・社会性の促進、(3) 成人期は、日常生活での心理的安定・自己の気づき・仲間関係の育成・進学および就労支援などでの効果が挙げられる。

研究成果の概要（英文）：The object of this clinical study was to examine the effects of using psychodrama as one method of the psychological support among people with high-functioning pervasive developmental disorders.　As a result, support of psychodrama method which was considered for subjects in each life-stage, in Infancy, in Childhood and in Youth was needed.　The specific effects of psychodrama were as follows. (1) Improvement to communicate in Infancy, (2) Improvement to communicate, introspection of each self and improvement of sociability in Childhood, (3) Mental stability in the daily life, improvement of each self-cognition, promotion of relationship with peers and guidance for each choice of higher education or job in Youth.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2007 年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2008 年度	900,000	270,000	1,170,000
2009 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総　計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：心理学･臨床心理学
キーワード：高機能広汎性発達障害　生涯発達支援　臨床心理学　心理劇　社会適応

１．研究開始当初の背景

高機能広汎性発達障害（高機能自閉症やアスペルガー症候群、以下 HFPDD と記す）を取り巻く社会的状況は特別支援教育や発達障害者支援法成立などにより、その支援の在り方について新たな方法が模索されている。HFPDD 児･者を支援するには、従来の行動療法や言語訓練などに加えて、社会適応力の向上、自分の感情を適切に表出できることなど、人格を向上させるためのさらなる工夫が必要であるが、研究代表者は、先行研究で約 15 年間、心理劇による心理療法を行い、その実践の実際と理論的枠組み、効用と限界などの知見を提示してきた。その結果、本研究テーマはニードが高いにもかかわらず臨床的研究はあまり進んでおらず代表者の研究がパイオニア的役割を果たしていることが明らかになった。

２．研究の目的

（1）HFPDD 児・者への生涯発達支援に関する臨床的研究として主に心理劇を適用し、その方法が彼らの社会適応力を向上させるための臨床心理学的支援となるかどうかを検討する。

（２）従来の研究に加え、適用対象者を新たに児童から成人という幅広い年齢層とし、その結果を考察することより、高機能広汎性発達障害者に対する一生涯の発達支援に関する新たな知見を提案する。

（３）さらに本研究で得られた知見を、様々な支援場面における臨床心理学的援助システム構築のために応用出来るかどうかを検討する。

３．研究の方法

（１）プログラムの試案作成及び実施

①心理アセスメント、心理劇の内容、分析方法の確立

研究代表者編著（2007）「発達障害のための心理劇」にあるHFPDD児・者に対する心理劇施行マニュアルをもとに幼児期から成人期までのHFPDD児･者それぞれの状況に応じたプログラムとして改変した。さらに、知的発達のレベルや暦年齢の段階に応じた一生涯の発達援助を考慮するために、心理劇の各種タイプ・技法（古典的サイコドラマ・ソシオドラマ・SST・ロールプレイなど）を各段階のHFPDD児・者に適用し、適切かどうか検討した。

②対象者の選定

インテーク面接による心理アセスメントおよび本人や保護者へのインフォームドコンセント

特に実践の経過をＶＴＲで記録し研究発表することについての説明と同意付けを丁寧に行った。

③プログラム実施に関わる研究補助者（学生・ボランティア等）の教育

心理劇という集団心理療法である技法を用いた研究を進めるためには、研究補助者の存在が不可欠である。研究補助者に対して、本研究に関わる理論や実践技法の研修を行った。

④様々な心理劇他の臨床的実践はＶＴＲ等で記録され、分析の対象となった。

（２）国内外の学会・講演・学習会における情報収集および成果発表

国際児童青年精神医学会・日本心理劇学会・日本自閉症スペクトラム学会・西日本心理劇学会・九州発達障害療育研究会等にて、上記研究試案を発表し、またその他研究会・講演会等で情報収集を行い、試案の客観性・妥当性を高めていった。

４．研究成果

（１）心理劇の効果について

①心理劇の場では、思いがけないほど豊かで自発的な気持ちの表現が多く示される。中でも HFPDD 児・者にとって日常ではあまり見られなかった表現や、より洗練された気持ちの表現がみられ、それはことばのみでなく、表情・姿勢・動作などで認められた。

②次に、心理劇の場で行われる他者とのやり取りによる効果が挙げられる。心理劇の場でHFPDD 児･者が自分のことを認められた時に、まさに自発性を発揮する様子が幾度も観察

された。
③これらの効果がなぜもたれされるかというと、心理劇では本人の自発性や創造性を最大限に認め、それに沿いながら場面を作っていくからであろう。そうすることで日常生活での不安を解消したり、日常では体験できない満足感・達成感を味わったり、こうありたいという自分を表現できるのである。それが本人の心の安定につながり、「自分の気持ちに気づく」「気持ちを適切に表現する」「他者の気持ちに気づく」につながっていくのであると思われる。

（２）生涯発達支援の視点を持った心理劇の活用

対象者は児童期から青年期のHFPDD児・者だが、支援者は彼らがどのように今まで育ってきてこれからどのように成長していくかという生涯発達観を持たねばならない。

①幼児期での心理劇の活用：他に学習すべき課題は多く、優先順位を考えるとこのような支援はまだ主ではなく補助的なものであるが、コミュニケーションのための言語訓練などで活用できる。

②児童期での心理劇の活用：対人関係能力を促進するために教育現場での交流活動などで十分活用できると思われる。さらに、自己の見直しや社会性の促進などに有効である。

③成人期での心理劇の活用：日常生活での安定や自己の気づきや仲間関係の育成、就労および進学支援、など様々な支援の形態が考えられる。また、過去の問題については事実を変えることはできないが、心理劇の場面という体験的現実により心理的な事実を修正することはでき、そうすることによって今までフラッシュバックに苦しめられていた対象者が落ち着くこともある。また、未来への不安も、心理劇の中で取り扱うことによって現実的にイメージしやすくなり、不安を軽減することが可能になる。

（３）心理劇の場は「想い（おもい）から現（うつつ）」を体験できる場

心理劇で体験される状況を先行研究において筆者は「想い（おもい）から現（うつつ）」を体験できる場と命名した（髙原2005,2007）。これは、彼らが頭の中でイメージすること（想）を実際に心理劇の場で監督が取り上げ、補助自我の支援を得て『現実的』に体験すること（現）である。本研究の対象者であるHFPDD児・者においても「想から現」を体験することで他者は自分に共感してくれることを感じ、自分の存在を再認識し，日頃の人間関係で傷ついた心が癒されるのである。そして本人が、させられたのではなく、自分で取り組んだことの意味を感じさせることや、過去のつらい体験を良い思い出に変えることなどが、この心理劇という技法が持つ体験の現実性によって可能になったと思われる。本研究において児童期から成人期のHFPDD 児・者についてこれらのことが確認された。

（４）得られた成果の国内外における位置づけ

以上の知見は2008年4月～5月にトルコで行われた国際児童青年精神医学会(IACAPAP)等、国内外の学会で発表し、実践ワークショップでその成果を実演してきた。その結果、本研究テーマの臨床的意義か確認され、以下今後の展望に示すような点でも臨床的に実践されるべきであることが認められた。

（５）今後の展望

今までの対象者に行う心理劇を、さらに社会性向上を目的としている心理劇、言語表出の向上を目的としている心理劇、カタルシスを目的としている心理劇、他者理解を目的としている心理劇等の区分を行い、その効果や技法の確立を考えていく。

今後も心理劇適用による児童から成人までのHFPDD児・者の変化を追うことで、彼らに対する一生涯の発達支援を目的とした心的援助の方策についてさらに具体的で新たな知見を提案していく。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　11 件）
①髙原朗子、発達障害児･者施設におけるロ

ール・プレイング、臨床心理学、査読無、10巻、2010、359－364
②髙原朗子、発達障害がある子どもたちの特性と支援、精神発達障害研究（社会福祉法人玄洋会紀要）、査読無、4巻、2010、29－32
③Takahara Akiko、Lecture by Professor Sir Michael Rutter : 2008.5.2 in Istanbul,Turkey Research into Autism: Accomplishment, Puzzles and Challenges、精神発達障害研究（社会福祉法人玄洋会紀要）、査読無、4巻、2010、71－80
④髙原朗子、池田顕吾、渡邊須美子、面高有作、青年期の高機能広汎性発達障害者に対する心理劇－セミ-オープン・グループでの適用－、心理劇、査読有、14巻、2009、47－59
⑤髙原朗子、発達障害児への適切な対応をめぐって－発達障害児･者のための心理劇－、教育と医学、査読無、57巻、2009、33－41
⑥髙原朗子、高機能広汎性発達障害における心理劇の効果－グループ創設期の事例の経過と現在－、熊本大学教育実践研究、査読無、26巻、2009、7－15
⑦髙原朗子、発達障害者に対する心理劇－玄洋会における心理劇実践の基本的考え方と方法－、精神発達障害研究（社会福祉法人玄洋会紀要）、査読無、3巻、2008、24－29
⑧髙原朗子、永吉昭子、ある自閉症者の内的世界－施設生活における独言より－、精神発達障害研究（社会福祉法人玄洋会紀要）、査読無、3巻、2008、30－39
⑨Takahara Akiko、Watanabe Sumiko、Psychodrama in Children and Adults with High-Functioning Pervasive developmental Disorders. 精神発達障害研究（社会福祉法人玄洋会紀要）、査読無、3巻、2008、77－85
⑩福田敬介、髙原朗子、池田顕吾、アスペルガー障害児・者への心理劇－自我強化の為の訓練合宿における実施を通して－、心理劇研究、査読有、31巻、2008、45－56
⑪髙原朗子、特別支援教育における心理劇適用の可能性－熊本大学地域貢献特別支援事業「特別支援教育　はじめの一歩」での取り組み－、心理劇研究、査読有、30巻、2007、13－22

〔学会発表〕（計10　件）
①髙原朗子、心理劇における成長モデルと治療モデル：障害がある人達への心理劇実践、西日本心理劇学会第35回鹿児島大会、2010.2.28、鹿児島大学
②髙原朗子、発達障害がある人達への心理劇による生涯発達支援、西日本心理劇学会第35回鹿児島大会、2010.2.28、鹿児島大学
③髙原朗子、自閉症スペクトラムの人へのサイコドラマ実践法、第26回自閉症実践療育セミナー　アスペルガー症候群への理解と関わり、2009.11.29、東京都　星陵会館
④髙原朗子、福祉領域での心理劇、西日本心理劇学会第34回長崎大会、2009.2.28、長崎市障害福祉センター
⑤髙原朗子、発達障害児･者への心理劇、日本心理劇学会第14回大会、2008.12.6、共立女子大学
⑥髙原朗子、自閉症へのアプローチについて各立場での現状と課題「心理劇の理論と実践」、社団法人日本自閉症協会第20回全国大会inくまもと、2008.7. 20、熊本市民会館
⑦Takahara Akiko、Psychodrama in Children and Adults with High-Functioning Pervasive developmental Disorders. 18th World Congress of the International Association for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions、2008.5. 1、Istanbul Convention & Exhibition center.Istanbul/Turkey
⑧髙原朗子、福祉に生かす心理劇、西日本心理劇学会第33回大分大会、2008.3.1、別府市中央公民館
⑨髙原朗子、発達障害のための心理劇、第８回九州発達障害療育研究会鹿児島大会、2007.11.4、鹿児島県市町村自治会館
⑩髙原朗子、ある自閉症の内的世界～臨床場面における考察より、第８回九州発達障害療育研究会鹿児島大会、2007.11.3 、鹿児島県市町村自治会館

〔図書〕（計　4件）
①髙原朗子、かもめ出版、高機能広汎性発達障害児・者への生涯発達支援に関する臨床的研究　平成19年度～平成21年度科学研究費補助金（基盤研究（C））課題番号：19530629　研究成果報告書、2010、184
②髙原朗子（編）、髙原朗子他（著）、九州大学出版会、軽度発達障害のための心理劇－情操を育む支援法－、2009、196
③髙原朗子、かもめ出版、広汎性発達障害児・者のための心理劇－想いから現へ－、2008、16
④ Takahara Akiko 、かもめ出版、Psychodrama in children and adults with Pervasive Developmental Disorders、2008、16

６．研究組織
(1)研究代表者
髙原　朗子（TAKAHARA AKIKO）
熊本大学・教育学部･准教授
研究者番号：20264989